

## 『道経一体経営原論』(初版 第1刷) 正誤表

『道経一体経営原論』(令和元年12月25日初版発行)におきまして、内容に誤りがありました。お詫びするとともに、下表のとおり、訂正いたします。

| 頁   | 行   | 誤                             | 正   |
|-----|-----|-------------------------------|---|
| 目 6 | 9   | 第五項 企業の本質は道徳である 23            | 第五項 企業の本質は道徳である <b>24</b>                   |
| 目17 | 16  | 第一項 どこに行っても通用する人に育てる          | 第一項 どこに行っても通用する人 <b>を</b> 育てる               |
| 目22 | 2   | 第四節 資本と労働 —————766            | 第四節 資本と労働 ————— <b>765</b>                  |
| 54  | 13  | 日本経済は金解禁や再解禁などを               | 日本経済は金解禁や <b>再禁止</b> などを                    |
| 99  | 17  | 生命を入れることを知らな                  | 生命を入 <b>る</b> ことを知らな                        |
| 105 | 8   | (『語録』一九一ページ、鷲津邦正)             | ( <b>鷲津邦正『経営と道徳』第十九号、一五ページ、</b> 『語録』一九一ページ) |
| 152 | 11  | ならぬのです                        | ならぬので <b>あります</b>                           |
| 158 | 8   | 真の道徳尊重である。                    | 真の <b>伝統</b> 尊重である。                         |
| 183 | 2   | とくに多額の利益                      | とくに <b>巨額</b> の利益                           |
| 199 | 11  | 持たぬ方安全であります。                  | 持たぬ方 <b>が</b> 安全であります。                      |
| 202 | 3   | 正統的物質生活法                      | <b>正統物質生活法</b>                              |
| 202 | 4   | 自給自足の原理によりて                   | 自給自 <b>活</b> の原理によりて                        |
| 211 | 11  | どんなに利益を上げている時でも               | どんなに <b>収益</b> を上げている時でも                    |
| 232 | 14  | 一、いかなる微少のことにも                 | 一、いかなる微 <b>小</b> のことにも                      |
| 241 | 2   | おるので早晚露見致します。                 | おるので、早晚 <b>必ず</b> 露 <b>見</b> いたします。         |
| 378 | 1   | これがために事実上、                    | これがため <b>の</b> 事実上、                         |
| 378 | 2   | 学問、技術、知識                      | 学問、 <b>知識、技術</b>                            |
| 378 | 5、9 | 工場の倒産                         | 工場の倒 <b>壊</b>                               |
| 378 | 8   | 職工の疲労と生命の縮小                   | 職工の疲労と生命の縮 <b>少</b>                         |
| 417 | 8   | 「割れ窓理論」(broken window theory) | 「割れ窓理論」(broken window <b>s</b> theory)      |
| 430 | 15  | 「より高い品質は、善である」                | 「より <b>良</b> い品質は、善である」                     |
| 432 | 16  | 盃の献酬〔やりとり〕                    | 盃の献酬〔 <b>とりやり</b> 〕                         |
| 438 | 13  | お客さんに映れば                      | <b>お客に映れば</b>                               |
| 439 | 1   | 『資料集』1 広池博士講演集                | 『資料集』 <b>2</b> 広池博士講演集                      |
| 467 | 2   | 多くの納税することが                    | 多くの納税 <b>を</b> することが                        |
| 472 | 10  | くによ<br>国用〔ししゅつ〕を制するに          | <b>こくよ</b><br>国用〔ししゅつ〕を制するに                 |
| 475 | 2   | スーパータックス                      | ス <b>ー</b> パータックス                           |

|     |    |  |   |
|-----|----|--|---|
| 487 | 6  | (『旧紀要』第四号、二五ページ)   | (『日記』⑤、一〇八ページ、昭和八年十一月二十三日、「第二五十鈴河畔の教訓」第十四箇条、『旧紀要』第四号、二五ページ、『語録』二四ページ)         |
| 519 | 16 | 投資キャッシュフローがマイナスで、  | 財務キャッシュフローがマイナスで、   |
| 527 | 図  | 負債合計・純資産合計   | 負債合計＋純資産合計  |
| 537 | 10 | 香川景三郎『れいろう』  | 香川景三郎・初音『れいろう』  |
| 538 | 3  | 一三〇ページ、『語録』七九ページ)  | 一三〇ページ)   |
| 538 | 13 | 自分の従業員の前途  | 自分の <b>使用人</b> の前途  |
| 539 | 2  | 商店に集まっている従業員の  | 商店に集まっている <b>使用人</b> の  |
| 550 | 1  | 使用人をこの教にて  | 使用人を <b>も</b> この <b>教え</b> にて   |
| 551 | 1  | 第一項 どこに行っても通用する人に育てる   | 第一項 どこに行っても通用する人 <b>を</b> 育てる   |
| 554 | 12 | どこに行っても通用する人に育てよう  | どこに行っても通用する人 <b>を</b> 育てよう  |
| 565 | 1  | 次に真に救われた工場主  | <b>真に救われた工場主</b>  |
| 584 | 11 | 資本家側が使用人を  | 資本 <b>主</b> 側が使用人を  |
| 585 | 3  | すべて、主人側にて  | <b>主人側にて</b>  |
| 585 | 3  | いう事を心がけるのは   | いう <b>こと</b> を心がくるのは  |
| 602 | 14 | 得んとするは不道德なり。   | 得んとすることは不道德なり。  |
| 657 | 17 | 『資料集』2 広池博士講演集——昭和時代篇第二輯、一五二ページ                              | <b>*「経済、財政及び産業につきて」</b>   |
| 685 | 9  | 第二五十鈴河畔の教訓」第十六箇条)  | 第二五十鈴河畔の教訓」第十六箇条、『 <b>旧紀要</b> 』第四号、二六ページ)                                     |
| 703 | 16 | 定——廣池博士の教訓   | 定—— <b>最高道徳は善人、賢人をますます大善人、大賢人にする教</b>   |
| 704 | 2  | 「第二五十鈴過半の教訓」第六箇条、  | 「第二五十鈴 <b>河畔</b> の教訓」第六箇条、『 <b>旧紀要</b> 』第四号、二四ページ、                            |
| 710 | 6  | 三ページ)  | 三ページ、『資料集』1 広池博士講演集——昭和時代篇第一輯、三二ページ)  |
| 735 | 15 | 自己反省している   | <b>悪人</b> に自己反省している   |
| 772 | 8  | 「道徳主義」よらなければならいと主張   | 「道徳主義」 <b>に</b> よらなければならいと主張  |
| 864 | 4  | 2、伝統の服   | 2、伝統の <b>服従</b>   |
| 867 | 9  | (2) 売り出し。一切を用いず。   | (2) 売り出し。一切 <b>政策</b> を用いず。   |
| 索 3 | い  | 入るを量りて出ざるを為む 77, 472, 476, 504                               | 入るを量りて出ざるを為む 77, 472, 476, 504, <b>755</b>                                    |
| 索 6 | き  | 『旧紀要』(モラロジー研究所) 8, 66, 98, 130, 173, 201, 279, 315, 487, 760 | 『旧紀要』(モラロジー研究所) 8, 66, 98, 130, 173, 201, 279, 315, 487, <b>685, 704, 760</b> |

|     |   |  |   |
|-----|---|--|---|
| 索 6 | け | 『経営と道徳』(モラロジー研究所)<br>135, 211, 285, 558, 565, 628, 665, 734        | 『経営と道徳』(モラロジー研究所)<br><b>105</b> , 135, 211, 285, 558, 565, 628, 665,<br>734     |
| 索12 | す | スマイルズ, サミュエル 102   | スマイルズ, サミュエル 102, <b>205</b>  |
| 索15 | と | 「動機と目的と方法と誠を悉す」 123, 142   | 「動機と目的と方法と誠を悉す」 123, <b>143</b>   |
| 索16 | な | ナポレオン一世 669  | ナポレオン一世 <b>19</b> , 669, <b>720</b>   |
| 索16 | に | 『日記(廣池千九郎日記)』 210, 381, 433,<br>665f, 685, 704, 709, 721, 741, 774 | 『日記(廣池千九郎日記)』 210, 381, 433,<br><b>487</b> , 665f, 685, 704, 709, 721, 741, 774 |
| 索21 | り | リスト, フリードリッヒ 748   | リスト, フリードリッヒ 748, <b>753</b>  |

以下、2版での訂正

|     |       |   |   |
|-----|-------|---|---|
| 6   | 11    | 道徳に墮落すれば  | 道徳的に墮落すれば   |
| 90  | 9     | 人間の常識も物理学的法則  | 人間の常識や物理学的法則  |
| 456 | 13    | 本田三寿亀   | 本 <b>多</b> 三寿亀  |
| 667 | 10~15 | 「元来、人間性には利己的本能と道徳的本能の二つの働きがありますが、この利己的本能に人間の実生活の大部分は支配されている。孔子も、このことに対して、「人心これ危うく、道心これ微なり」と言っている。つまり、人間の心は利己的にはたつきやすく、道徳を実行することはきわめて難しい。道心(道徳心)というのは、きわめて微かであって、人間が生存するのにほとんど利己的本能に支配されて行動しているの、人間の実生活は危ういものである」(昭和十年五月六日、廣池学園大講堂での講演速記録、『社会教育資料』第十二号、六ページ) | 「元来、人間性には利己的本能と道徳的本能の二つの働きがありますが、この利己的本能に <b>人間実生活</b> の大部分は支配される <b>ものであります</b> が、孔子の道統にても、これに対して「人心これ危うく、道心これ微 <b>か</b> なり」と言っている <b>のであります</b> 。道心(道徳心)というは、 <b>ごくごく</b> 微かであって、人間が生存するのにほとんど利己的本能に支配されて行動していくので、 <b>人間実生活が危ういのである</b> 」(昭和十年五月六日、廣池学園大講堂での講演速記録、『社会教育資料』第十二号、六ページ、『資料集』1 広池博士講演集—昭和時代篇第一輯、四〇三ページ) |

公益財団法人モラロジー道徳教育財団  
お問い合わせ先:04-7173-3155(出版部)

(令和4年7月1日更新)